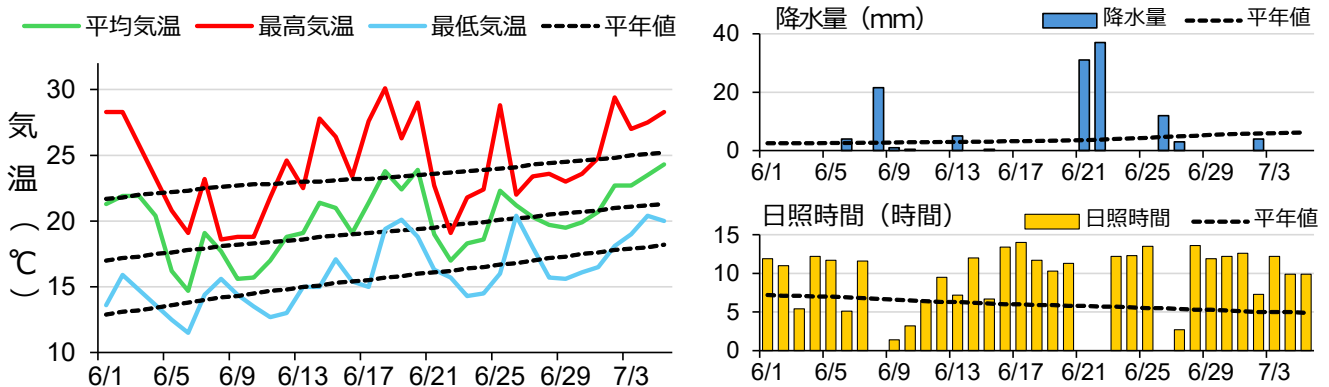


生育かなり早い!!生育に応じた適切な管理を!

～確保した茎を充実させる水管理と診断に基づいた適切な追肥を!～

1 気象経過と生育状況

【気象経過】(アメダス:能代)



○6月下旬は気温は平年を下回り、まとまった降雨があったものの、7月に入ってから気温・日照時間ともに平年を上回って推移しています。また、降水量は少ない状態が続いています。

○仙台管区気象台が発表した1か月予報(7月2日現在)では、今後も平均気温は高く、平年と同様に曇りや雨の日が多くなると予想されています。

【生育状況】

○7月6日現在の管内水稻定点調査ほ(9地点、品種:あきたこまちR)の生育は平年に比べ、草丈は短く、茎数・葉数はともに多く、葉色は薄くなっています。

○高温傾向の影響により、葉数からみた稲の生育は、かなり早まっています。多くの定点ほ場では幼穂が確認され、すでに幼穂形成期を迎えたほ場もみられます。

○確保した茎を充実させるため、ほ場の生育状況に合わせた適切な水管理を行いましょう。

○定点調査結果(7月6日)

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(葉)	葉色
本年	51.8	551	10.9	41.9
平年	53.5	494	10.2	44.5
前年	57.3	444	10.1	43.2
平年比較	97%	111%	+0.7	94%
前年比較	90%	124%	+0.8	97%

※平年は過去10カ年の平均値。葉色はSPAD-502Cで測定

2 生育に応じた水管理

○幼穂形成期(幼穂長2mm期)を、発育モデルを用いて予測すると、あきたこまちR(中苗)を5月20日に田植えした場合、平年値より3日早い7月12日と見込まれます。

○幼穂形成期に土壤水分が不足すると1穂着粒数が減少するため、中干しは幼穂形成期までに終了します。中干し後は稲体の活力維持のため間

○幼穂形成期の予測(アメダス能代)

田植日	本年(平年値)
5月10日	7月6日(7月10日)
5月15日	7月9日(7月12日)
5月20日	7月12日(7月15日)
5月25日	7月15日(7月18日)

※中苗。7月4日以降は平年値を使用。

断かん水を基本とします。

○中干しを十分にできなかったほ場では、落水期間をやや長めとする間断かん水により地耐力を高めます。

◆カドミウム含有米の発生が懸念される地域で「あきたこまちR」以外の品種を作付けしている場合は、間断かん水をせずに**出穂期前後3週間の計6週間（平年で7月15日頃～8月25日頃）は湛水管理を厳守してカドミウム吸収を抑制**してください。生育が早まっているほ場も見られるため、ほ場の生育状況を確認して、適期に水管理を行うようにしましょう。

3 あきたこまちの栄養診断

【栄養診断による追肥の判断】

- 幼穂形成期の極端な葉色低下は、1穂着粒数の減少・有効茎歩合の低下を招きます。ほ場ごとに幼穂の発育状況と生育量を確認し、生育・栄養診断を必ず実施してください。
- 幼穂形成期の草丈が62cm以上、葉色が42以上の場合、倒伏の危険性が高くなるので穂肥の施用を控えます。
- 緩効性肥料や育苗箱全量施肥の場合は、この栄養診断は当てはまらないので注意してください。

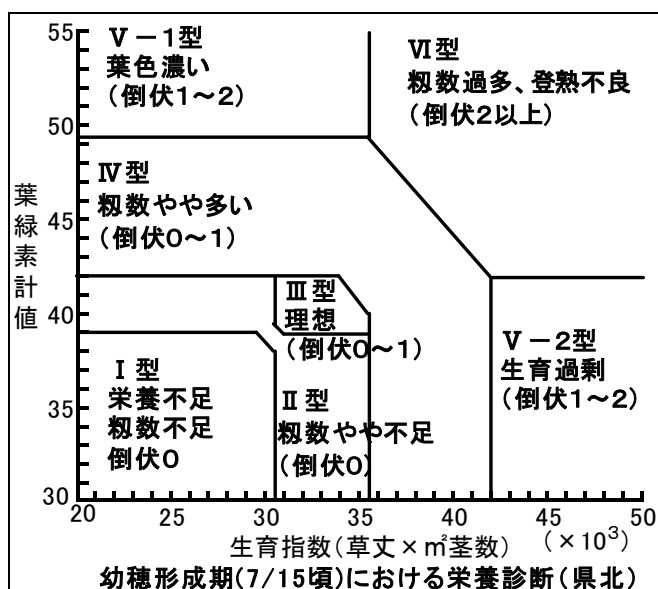
生育型	窒素追肥量(kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
I型	2kg	2kg
II型	2kg	2kg
III型	ムラ直し1kg	2kg
IV型	なし	2kg
V-1型	なし	ムラ直し1kg
V-2型	なし	ムラ直し1kg
VI型	なし	なし

(注)目標収量570kg/10a、あきたこまち

幼穂形成期（11葉期頃）の理想生育量（県北）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD値)	生育量 (×10 ³)
上限値	62	586	11	42	35.6
理想値	60	552	10.8	40	33.1
下限値	57	519	10.6	39	30.5

※生育量は草丈×m²当たり茎数。



4 主要病害虫の防除

【いもち病】

- 病害虫防除所の発生予察情報（令和8年6月30日発行）によると、葉いもちの発生時期は早く、発生量は平年並と予想されています。
- 今後は高温・多湿の気象が予想されるため、ほ場の見回りにより早期発見に努め、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス等）を散布してください。

【斑点米カメムシ類】

- 病害虫防除所の発生予察情報によると、発生量はやや少ないと予想されています。
- 稲が出穂する15～10日前までに、畦畔や農道等を対象に地域で一斉に数回除草を行い、イネ科雑草の除去に努めてください。
- 水田内にホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの残草があると、アカスジカスミカメの侵入を助長するので、水田内の雑草対策を徹底しましょう。

「ツキノワグマ出没に関する警報」が発令！！農作業中のクマ被害に十分な警戒を！！
不明な点がある場合は、山本地域振興局農林部農業振興普及課（TEL52-1241）までご連絡ください。